

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名 称：「成人病から生活習慣病、そして今後 ～疾病予防をさらに進めるために～」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等： なし
- 3 開催日時：令和7年2月24日(月)13:00 ～ 17:00
- 4 開催場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
- 5 開催趣旨：生活習慣病という用語は、平成8年に厚生省（当時）により導入後広く普及し、国民の間にも生活習慣の重要性の認識は浸透した。一方、大規模ゲノム解析等に基づく遺伝的素因に関する理解、**Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD)** として知られる妊娠前・出生前から幼小児期の環境要因、温湿度・住環境・大気汚染を含む環境要因、さらには **COVID-19** による血管炎等の関与など、多様な環境要因の関与についての理解が大きく進んだ。そうした中で「生活習慣」に関する個人責任が過度に強調されることで差別や偏見に繋がる懸念が増大しており、その対応が30年を経て改めて必要とされる。国民の主要な死因、健康寿命延伸の阻害要因である生活習慣病の予防対策を様々な職種や担い手が協働して進めていくことが、日本社会の活力の維持や増進に重要であるが、その対策について学術的な観点からの問題点の整理と解決策の提案が求められている。令和8年に公表予定の提言作成にあたっての議論醸成のため、本フォーラムを開催する。
- 6 参加人数：10
講演者等：5 名
その他の参加者：最大同時視聴者数 86 名
- 7 特記事項：
本フォーラムでの議論は意見の表出に反映することと同時に、「生活習慣病」の名称に関して「LIFE」を含めて国際的な提言を行うことを考えている。次回 2025 年 5 月 24 日に日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会の主催・第 61 回日本循環器病予防学会共催で、公開シンポジウム「生活習慣がその発症・進行に関与する疾病予防のための最適な社会環境づくりと多様な担い手による支援」を開催する予定であり、今回において行政側のご意見を伺い意見の表出に反映させてゆく予定としている。